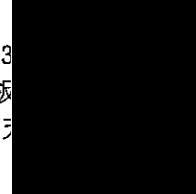


関東信越厚生局長 殿

東京都板橋区大谷口上町 3
日本大学医学部附属板橋
病院長 澤 秀 夫



日本大学医学部附属板橋病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平 2 2 年度の業務
に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	171.8人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	437人	78.6人	515.6人	看護補助者	42人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	8人	4.6人	12.6人	理学療法士	12人	臨床検査技師	85人
薬剤師	46人	0.5人	46.5人	作業療法士	1人	衛生検査技師	0人
保健師	73人	0人	73人	視能訓練士	5人	その他	0人
助産師	36人	0人	36人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	1人
看護師	788人	16.7人	804.7人	臨床工学技士	22人	医療社会事業従事者	5人
准看護師	5人	0人	5人	栄養士	3人	その他の技術員	0人
歯科衛生士	2人	2.1人	4.1人	歯科技工士	1人	事務職員	83人
管理栄養士	11人	0人	11人	診療放射線技師	62人	その他の職員	30人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	782.6人	5.5人	788.1人
1日当たり平均外来患者数	2124.2人	62.6人	2186.8人
1日当たり平均調剤数	外来分：21.0剤 入院分：810.4剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
Q熱診断における血清抗体測定及び病原体遺伝子診断(急性期又は慢性期のQ熱に係るものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
なし	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	膀胱鏡下小切開根治的前立腺全摘出術	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 ミニマム創にて前立腺癌に対する前立腺全摘・精のうの摘出・リンパ節郭清を行なう方法 (ガスレス)			
医療技術名	膀胱悪性腫瘍手術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 膀胱癌に対する膀胱の摘出と尿路変更をあわせて行なう方法			
医療技術名	尿道形成術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 尿道損傷に対する尿道形成を行なう方法			
医療技術名	尿道下嚢手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 尿道下嚢に対する形成術			
医療技術名	大腿骨頭壊死に対する骨髄血移植術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 大腿骨頭壊死部位に腸骨より採取した骨髄幹細胞を移植し壊死部の再生を促す			
医療技術名	椎体形成術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 椎体に人工骨を充てんし、椎体を形成する			
医療技術名	卵管鏡	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 卵管性妊娠に対する卵管鏡を用いた治療			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	87人	・膿疱性乾癬	1人
・多発性硬化症	80人	・広範脊柱管狭窄症	4人
・重症筋無力症	188人	・原発性胆汁性肝硬変	390人
・全身性エリテマトーデス	730人	・重症急性膵炎	9人
・スモン	4人	・特発性大腿骨頭壊死症	5人
・再生不良性貧血	94人	・混合性結合組織病	116人
・サルコイドーシス	169人	・原発性免疫不全症候群	9人
・筋萎縮性側索硬化症	18人	・特発性間質性肺炎	84人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	367人	・網膜色素変性症	22人
・特発性血小板減少性紫斑病	249人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	18人	・肺動脈性肺高血圧症	1人
・潰瘍性大腸炎	327人	・神経線維腫症	7人
・大動脈炎症候群	25人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	0人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	24人	・慢性血栓性肺高血圧症	0人
・脊髄小脳変性症	72人	・ライソゾーム病	0人
・クローン病	63人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	12人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	487人
・悪性関節リウマチ	22人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	786人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	56人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	10人
・後縦靭帯骨化症	134人	・肥大型心筋症	95人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	4人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	8人	・ミトコンドリア病	4人
・ウェゲナー肉芽腫症	48人	・リンパ管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	1人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	2人	・黄色靭帯骨化症	32人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	604人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・乳がんセンチネルリンパ節	・
・悪性黒色腫センチネルリンパ節	・
・胎児心エコー法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年7回開催
部 検 の 状 況	部検症例数 70例 / 部検率 13.50%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
冠動脈粥腫破綻機序を解明するための三次元破壊力学手法による独自の解析と治療法開発	廣 高史	循環器内科	170万円	補	科学研究費
不安定プラークの評価と病理組織所見との対比とプラーク安定化の機序解明	平山篤志	循環器内科	104万円	補	科学研究費
大脳局所皮質厚測定の最適化と容積データとの比較	阿部 修	放射線科	170万円	補	学術振興会科研費
包括型脳科学研究推進支援ネットワーク	阿部 修	放射線科	294万円	補	学術振興会科研費
災害・重大健康危機の発生時・発生後の対応体制及び健康被害抑止策に関する研究	木下 浩作	救命救急センター	50万円	補	科学研究費補助金
高温環境下の血管内皮細胞における抗炎症効果—温度と生体防御反応	木下 浩作	救命救急センター	143万円	補	科学研究費補助金
内皮細胞の低温下 LPS 刺激培養での炎症性サイトカイン mRNA の安定性の経時的変化	櫻井 淳	救命救急センター	50万円	補	科学研究費補助金
脱分化脂肪細胞 (DFAT) を用いた難治性炎症性腸疾患に対する新規治療法の開発	小沼 憲祥	小児外科	150万円	補	文部科学省
神経芽腫における MYCN 遺伝子を標的とした PI ポリアミドの抗腫瘍効果に関する研究	大橋 研介	小児外科	140万円	補	文部科学省
ベックウィズウィードマン症候群および腎芽腫の刷り込み現象：その化学調節研究	越永 従道	小児外科	180万円	補	文部科学省
小腸移植拒絶反応制御を目的とした集学的治療の確立	杉藤 公信	小児外科	50万円	補	文部科学省
小児固形腫瘍、特に小児肝癌における腫瘍感受性遺伝子ならびに関連因子に関する研究	池田 太郎	小児外科	80万円	補	文部科学省
MYCN 遺伝子を標的とした神経芽腫細胞腫の新規治療の開発	越永 従道	小児外科	443万円	補	日本大学学術研究助成金
Wilms 腫瘍に対する生物学的予後因子により層別化した新規治療プロトコールの開発	大阪大学 大植 孝治	大阪大学 小児外科	10万円	補 委	文部科学省分担 研究者配分

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
前立腺癌における ETS family と癒合する遺伝子群のアンドロゲン応答機構	大日方 大亮	泌尿器科分野	100 万円	補	同窓会 60 周年記念医学推奨金
前立腺細胞増殖に関与する内分泌関連タンパクの解析	高橋 悟	泌尿器科分野	280 万円	補	科学研究費
腎細胞癌の転移関連蛋白解析	山口 健哉	泌尿器科分野	100 万円	補	創立 50 周年記念研究推奨金
降圧治療および抗凝固療法の個人の特性に応じたテーラード治療確立に関する研究	相馬 正義	腎臓高血圧内分泌内科学分野	15 万円	補	厚生労働科学研究費
降圧治療および抗凝固療法の個人の特性に応じたテーラード治療確立に関する研究	相馬 正義	総合科(内科)	15 万円	補	厚生労働科学研究費
気道上皮透過性制御因子の同定とその臨床応用	権 寧博	総合科(内科)	100 万円	補	学術振興会科研費
健康づくりのための休養や睡眠の在り方に関する研究	内山 真	精神神経科	100 万円	補	厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患等生活病対策総合研究事業)
うつ病と睡眠問題の疫学的関連性及び睡眠指導によるうつ病予防法	内山 真	精神神経科	100 万円	補	科学研究費補助金(基盤研究C)
がん患者の支持療法・緩和療法の技術の向上およびその評価に関する研究	金野 倫子	精神神経科	150 万円	委	国立がん研究センターがん研究開発費
単一遺伝子疾患における遺伝子変異の新規検出方法確立—関連解析の応用—	中山 智祥	臨床検査医学科	160 万円	補	学術振興会科研費
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確率のための研究	吉田 行弘	整形外科	35 万円	補	厚生労働省
骨粗鬆症椎体骨折に対する低侵襲治療法のための開発	徳橋 泰明	整形外科	200 万円	補	厚生労働省
椎間可動性を温存した脊椎制動システムの開発	徳橋 泰明	整形外科	90 万円	補	文部科学省

計 27 件

注 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
日大医学雑誌 69 (7月号) 144~145, 2010	腹部大動脈瘤治療の変遷—endovascular abdominal aortic aneurysm repair (EVAR)の登場—	前田 英明	血管外科
Surgery Today 41 (3月号) 346~351, 2011	Primary Infected Abdominal Aortic Aneurysm : Surgical Procedures, Early Mortality Rates, and a Survey of the Prevalence of Infectious Organisms over a 30-Year Period	前田 英明	血管外科
Neuroradiology 2010; 52: 699-710	Voxel-based analysis of the diffusion tensor.	阿部 修	放射線科
Psychiatry Res-NEUROIM 2010; 181: 64-70	Voxel-based analyses of gray/white matter volume and diffusion tensor data in major depression.	阿部 修	放射線科
NMR Biomed 2010; 23: 446-458	Sex dimorphism in gray/white matter volume and diffusion tensor during normal aging.	阿部 修	放射線科
Epilepsia 2010; 51: 2484-2487	A case of adult-onset type II citrullinemia with comorbid epilepsy even after liver transplantation.	阿部 修	放射線科
Neuroradiology 2010; 52: 865-873	Age-related changes in regional brain volume evaluated by atlas-based method.	阿部 修	放射線科
Magn Reson Imaging 2010; 28: 594-598	Three-dimensional susceptibility-weighted imaging at 3T using various image analysis methods in the estimation of grading intracranial gliomas.	阿部 修	放射線科
Clin Imaging 2010; 34: 332-336	High signal intensity in the dural sinuses on 3D-TOF MR angiography at 3.0 T.	阿部 修	放射線科
Biol Psychiatry 2010; 68: 1066-1072	Association between the oxytocin receptor gene and amygdalar volume in healthy adults.	阿部 修	放射線科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Genes Brain Behav 2010; 9: 269-275	Functional (GT)n polymorphisms in promoter region of N-methyl-d-aspartate receptor 2A subunit (GRIN2A) gene affect hippocampal and amygdala volumes.	阿部 修	放射線科
Brain Res 2010; 1331: 51-57	Effect of tryptophan hydroxylase-2 gene variants on amygdalar and hippocampal volumes.	阿部 修	放射線科
Neuroimage 2010; 49: 3474-3480	Differential temporo-parietal cortical networks that support relational and item-based recency judgments.	阿部 修	放射線科
Neurosurgery 2010; 67: 100-109; discussion 109	Contrast-enhanced magnetic resonance characteristics of arteriovenous malformations after gamma knife radiosurgery: predictors of post-angiographic obliteration hemorrhage.	阿部 修	放射線科
Schizophr Res 2010; 116: 196-203	Gray and white matter volumetric and diffusion tensor imaging (DTI) analyses in the early stage of first-episode schizophrenia.	阿部 修	放射線科
Neuroradiology 2010; 52: 729-733	Diffusion tensor tract-specific analysis of the uncinate fasciculus in patients with amyotrophic lateral sclerosis.	阿部 修	放射線科
Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci 2010; 260: 465-473	Reduced gray matter volume of Brodmann's Area 45 is associated with severe psychotic symptoms in patients with schizophrenia.	阿部 修	放射線科
J Magn Reson Imaging 2010; 32: 489-492	Effects of gradient non-linearity correction and intensity non-uniformity correction in longitudinal studies using structural image evaluation using normalization of atrophy (SIENA).	阿部 修	放射線科
Neuroradiology 2010; 52: 691-698	Computational analysis of cerebral cortex.	阿部 修	放射線科
J Magn Reson Imaging 2010; 31: 221-226	A voxel-based morphometry (VBM) and diffusion tensor imaging (DTI) study.	阿部 修	放射線科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Biol Psychiatry 2010; 68:1141-1147	Reduced gray matter volume of pars opercularis is associated with impaired social communication in high-functioning autism spectrum disorders.	阿部 修	放射線科
Jpn J Radiol 2010; 28: 27-33	Motion-robust diffusion tensor acquisition at routine 3T magnetic resonance imaging.	阿部 修	放射線科
Surgery Today [Accepted] 2010 Jan 4.	Abdominal Wall Invasion from an Isolated Tuberculous Liver Abscess: Report of a Case.	阿部 克己	放射線科
Abdom Imaging. 35(1):85-87, 2010.	Characteristics of ectopic pancreas in dynamic gadolinium-enhanced MRI.	阿部 克己	放射線科
Abdominal Imaging. 35:481-484, 2010	Primary Leiomyosarcoma of the inferior vena cava: case report	阿部 克己	放射線科
Radiological Physics and Technology [Epub ahead of print] 2010 Dec 18.	Clinical usefulness of temporal subtraction method in screening digital chest radiography with a mobile computed radiography system.	阿部 克己	放射線科
THE AMERICAN JOURNAL OF CARDIOLOGY. 105, 144-148, 2010	Relation of Change in the Apolipoprotein B/Apolipoprotein A-I Ratio to Coronary Plaque Regression following Pravastatin Treatment in Patients with Coronary Artery Disease	Shigemasa Tani, Shigemasa Tani	循環器内科
THE AMERICAN JOURNAL OF MEDICINE. 123, e9-e10, 2010	Transient Collateral Circulation during Coronary Vasospasm.	Shigemasa Tani, Shigemasa Tani	循環器内科
CIRCULATION JOURNAL. 74, 34-40, 2010	Non-Invasive Assessment and Clinical Strategy of Stable Coronary Artery Disease by Magnetic Resonance Imaging, Multislice Computed Tomography and Myocardial Perfusion SPECT	Naoya Matsumoto, Yuichi Sato	循環器内科
CIRCULATION JOURNAL. 74, 77-85, 2010	Early Induction of Hypothermia During Cardiac Arrest Improves Neurological Outcomes in Patients With Out-of-Hospital Cardiac Arrest Who Undergo Emergency Cardiopulmonary Bypass and Percutaneous Coronary Intervention	Ken Nagao	循環器内科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
CIRCULATION JOURNAL. 74, 954-961, 2010	Coronary plaque regression and lifestyle modification in patients treated with pravastatin. - Assessment mainly by daily aerobic exercise and an increase in the serum level of high-density lipoprotein cholesterol	Shigemasa Tani	循環器内科
CIRCULATION JOURNAL. 74, 2658-2665, 2010	Diagnostic Value of Adenosine-induced Left Ventricular Diastolic Dysfunction for Detecting Coronary Artery Restenosis in Patients undergoing Stent Implantation by Stress ECG-gated Myocardial Perfusion SPECT-A Pilot Study-	Yoshimochi Nakano , Naoya Matsumoto	循環器内科
CIRCULATION JOURNAL. 74, 2285-2287, 2010	Nifekalant Hydrochloride for Patients With Cardiac Arrest Caused by Shockable Rhythm.	Ken Nagao	循環器内科
CIRCULATION JOURNAL. 74, 252-253, 2010	Can an intravascular imaging modality detect really vulnerable plaque?	Tadateru Takayama	循環器内科
CIRCULATION JOURNAL. 74, 2744-2749, 2010	Is angioplasty able to become the gold standard of treatment beyond bypass surgery for patients with multivessel coronary artery disease? Therapeutic strategies for 3-vessel coronary artery disease: OPCAB vs PCI (PCI-Side)	Tadateru Takayama	循環器内科
INTERNATIONAL HEART JOURNAL. 51, 421-425, 2010	Correlation of left ventricular pressure changes and left atrial function on strain rate imaging during acute left ventricular ischemia	Yu-ming Mu, Yuji Kasamaki	循環器内科
CIRCULATION JOURNAL. 74, 1165-1174, 2010	Diabetes mellitus is a major negative determinant of coronary plaque regression during statin therapy in patients with acute coronary syndrome—serial intravascular ultrasound observations from the Japan Assessment of Pitavastatin and Atorvastatin in Acut	Takafumi Hiro , Masunori Matsuzaki	循環器内科
J Interventional Cardiac Electrophysiology. 29, 147-156, 2010	Upper turnaround point of the reentry circuit of common atrial flutter—three-dimensional mapping and entrainment study.	Yasuo Okumura	循環器内科
INTERNATIONAL HEART JOURNAL. 51, 17-23, 2010	Right ventricular histological Substrate and conduction delay in patients with Brugada syndrome.	Kimie Ohkubo, Ichiro Watanabe	循環器内科
CIRCULATION JOURNAL. 74, 664-670, 2010	Abnormal action potential duration property in the right ventricular outflow tract in Brugada syndrome.	Sonoko Ashino , Ichiro Watanabe	循環器内科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
INTERNATIONAL HEART JOURNAL. 51, 159-165, 2010	Abnormal atrial repolarization and depolarization contribute to the inducibility of atrial fibrillation in Brugada syndrome.	Masayoshi Kofune, Ichiro Watanabe	循環器内科
INTERNATIONAL HEART JOURNAL. 51, 193-198, 2010	temperature-Controlled Cooled-Tip Radiofrequency Ablation in Left Ventricular Myocardium: Avoidance of Steam Pop During Ablation.	Ichiro Watanabe, Min Nuo	循環器内科
INTERNATIONAL HEART JOURNAL. 51, 354-358, 2010	Electrical Remodeling in Fibrillating Canine Atrium: Action Potential Alternans during Rapid Atrial Pacing and Late Phase 3 Early Afterdepolarization after Cessation of Rapid Atrial Pacing -	Ichiro Watanabe	循環器内科
JOURNAL OF ELECTROCARDIOLOGY. 44, 87-91, 2010	Ventricular fibrillation induced by radiofrequency ablation for slow ventricular tachycardia associated with left ventricular dysfunction.	Masayoshi Kofune, Ichiro Watanabe	循環器内科
Hepatogastroenterology. (99-100):620-624, 2010	The peculiar processing of pancreatic hormone glucagon seen in traumatized patients	Katsuhisa Tanjoh	救命救急センター
J Surg Res. 162(2):221-224, 2010	Change in Brain Glucose After Enteral Nutrition in Subarachnoid Hemorrhage	Kosaku Kinoshita	救命救急センター
日本救命医療学会雑誌 24:33-37, 2010	都市型三次救命救急センターにおける入院実績の変化ー北守谷 俊米型診療とのかかわりからー	北守谷 俊	救命救急センター
日腹部救急医学会誌 30(1):41-44, 2010	救命救急センターの初療におけるチーム医療	木下浩作	救命救急センター
日救急医学会誌(JJAAM). 2011; 22:70-75	市中型MRSA (CA-MRSA) 感染により, toxic shock syndromeを来した1例ー抗菌薬の選択についての考察ー	桑名 司	救命救急センター
日本集中治療医学会雑誌 18(1)89-93, 2011	急性硬膜下血腫術後管理に脳内グルタミン酸測定が有用であった2症例	向山剛生	救命救急センター

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
神経救急 22(2), 6-10, 2010	頭蓋内疾患に対する血糖の評価と管理について	守谷 俊	救命救急センター
Sugery today	Mesenchymal hamartoma of the liver originating in the caudate lobe with t(11;19) (913;913, 4): Report of a case	Sugito, k	小児外科
Pediatrics International	Application of radio frequency ablation for giant solid pseudopapillary tumor of the Pancreas	Sugito, k	小児外科
小児がん	完全寛解後に緩徐な血清 AFP 値の上昇に伴って再発肺転移を認めた肝芽腫の 1 例	杉藤公信	小児外科
小児がん	肝芽腫, 膵腺房細胞癌の混合型腫瘍の 1 例	杉藤公信	小児外科
Pediatric Transplantation	Effect of combined treatment with FK506, FTY720, and ex vivo graft irradiation in rat small bowel transplantation.	Sugito, k	小児外科
Pediatric Hematology oncology	usefulness of power Doppler ultrasonography and superparamagnetic ironoxide enhanced magnetic resonance imaging for.	Sugito, k	小児外科
日本小児外科学会誌	先天性嚢胞性腺腫様奇形術後に呼吸障害を伴った漏斗胸に対して Ravitch 手術にて改善を得た 1 例	細川崇	小児外科
日本小児外科学会誌	vonHippel Lindau (VHL) 遺伝子の生殖細胞変異を伴った傍神経節腫の 1 例	川島弘之	小児外科
日本小児外科学会誌	CA19-9 と CA125 が高値を呈した処女膜閉鎖症の 1 例	浅井陽	小児外科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを 100 件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
International Journal of Urology Volume 17, 353-358, April 2010	Tension-free vaginal mesh procedure for pelvic organ prolapse: A single-center experience of 310 cases with 1-year follow up	Satoru Takahashi	泌尿器科
International Journal of Urology impress	Laparoscopic transvesical removal of erosive mesh after trans-obturator tape procedure	Tsuyoshi Yoshizawa	泌尿器科
J Hum Hypertens. 2010 May;24(5):327-35.	The purinergic receptor P2Y ₂ , G-protein coupled, 2 (P2RY2) gene associated with essential hypertension in Japanese men.	Wang Z, Soma M, 他	腎臓高血圧内分泌内科
J Hum Hypertens. 2010 May;24(5):351-8.	Haplotype-based case-control study of receptor (calcitonin) activity-modifying protein-1 gene in cerebral infarction.	Nakazato T, Soma M, 他	腎臓高血圧内分泌内科
Am J Hypertens. 2010 May;23(5):547-55.	Association study of the elastin microfibril interfacer 1 (EMILIN1) gene in essential hypertension.	Shimodaira M, Soma M, 他	腎臓高血圧内分泌内科
Cardiovasc Diabetol. 2010 Aug 16;9:38.	Effect of candesartan monotherapy on lipid metabolism in patients with hypertension: a retrospective longitudinal survey using data from electronic medical records.	Nishida Y, Soma M, 他	腎臓高血圧内分泌内科
Hereditas. 2010 Oct;147(5):215-24.	Association of the insulin-like growth factor1 gene with myocardial infarction in Japanese subjects.	Aoi N, Soma M, 他	腎臓高血圧内分泌内科
Eur J Endocrinol. 2010 Oct;163(4):671-80.	Association of HSD3B1 and HSD3B2 gene polymorphisms with essential hypertension, aldosterone level, and left ventricular structure.	Shimodaira M, Soma M, 他	腎臓高血圧内分泌内科
Hereditas. 2010 Dec;147(6):313-9.	The haplotype of the CACNA1B gene associated with cerebral infarction in a Japanese population.	Yamaguchi M, Soma M, 他	腎臓高血圧内分泌内科
J Hypertens. 2011 Jan;29(1):91-101.	Treatment with valsartan stimulates endothelial progenitor cells and renal label-retaining cells in hypertensive rats.	Yoshida Y, Soma M, 他	腎臓高血圧内分泌内科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Intern Med. 2011;50(18):2039-43.	Disseminated gonococcal infection in Japan: a case report and literature review.	Suzaki A, Soma M, 他	腎臓高血圧内分泌内科
Hypertens Res. Mar;34(3):348-53.	2011 Protective effects of statin on cardiac fibrosis and apoptosis in adrenomedullin-knockout mice treated with angiotensin II and high salt loading.	Yamamoto C, Soma M, 他	腎臓高血圧内分泌内科
Curr Drug Metab. Jan;12(1):57-69.	2011 Antidiabetic agents in patients with chronic kidney disease and end-stage renal disease on dialysis: metabolism and clinical practice.	阿部隆紀, 相馬正義	腎臓高血圧内分泌内科
Int J Nephrol. 2011	Comparison of sustained hemodiafiltration with acetate-free dialysate and continuous venovenous hemodiafiltration for the treatment of critically ill patients with acute kidney injury.	阿部隆紀, 相馬正義	腎臓高血圧内分泌内科
Clinical Nephrology 75, 49-58, 2011	Relationship between insulin resistance and erythropoietin responsiveness in hemodialysis patients	阿部隆紀, 相馬正義	腎臓高血圧内分泌内科
Artificial Organs 35, 398-403, 2011	Characterization of insulin adsorption behavior of dialyzer membranes used in hemodialysis	阿部隆紀, 相馬正義	腎臓高血圧内分泌内科
Hypertension Research 34, 268-273, 2011	Benidipine reduces albuminuria and plasma aldosterone in mild to moderate stage chronic kidney disease with albuminuria	阿部隆紀, 相馬正義	腎臓高血圧内分泌内科
International Journal of Artificial Organs 34, 16-25, 2011	The relationship between erythropoietin responsiveness, insulin resistance, and MIA syndrome in hemodialysis patients with diabetes	阿部隆紀, 相馬正義	腎臓高血圧内分泌内科
Expert Opinion on Investigational Drugs 19, 1027-1037, 2010	Comparison between the antiproteinuric effects of the calcium channel blockers-benidipine and cilnidipine-in combination with angiotensin receptor blockers in hypertensive patients with chronic kidney disease	阿部隆紀, 相馬正義	腎臓高血圧内分泌内科
Expert Opinion on Pharmacotherapy 11, 1611-1620, 2010	Clinical effectiveness and safety evaluation of long-term pioglitazone treatment for erythropoietin responsiveness and insulin resistance in type 2 diabetic patients on hemodialysis	阿部隆紀, 相馬正義	腎臓高血圧内分泌内科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Endocrine Journal 57, 581-588, 2010	Efficacy and safety of mitiglinide in diabetic patients on maintenance hemodialysis	阿部 隆紀	腎臓高血圧内分泌内科
Expert Opinion on Pharmacotherapy 11, 169-176, 2010	Combination therapy with mitiglinide and voglibose improves glycemic control in type 2 diabetic patients on hemodialysis	阿部 隆紀	腎臓高血圧内分泌内科
International Journal of Clinical Pharmacology and Therapeutics 48, 206-213, 2010	Blood pressure-lowering and antiproteinuric effect of switching from high-dose angiotensin receptor blockers to normal-dose telmisartan and low-dose hydrochlorothiazide in hypertensive patients with chronic kidney disease	阿部 隆紀	腎臓高血圧内分泌内科
Artificial Organs 34, 331-338, 2010	Comparison with sustained hemodiafiltration versus continuous venovenous hemodiafiltration for critically ill patients with acute kidney injury	阿部 隆紀	腎臓高血圧内分泌内科
J Hum Hypertens. 2010 May;24(5):327-35.	The purinergic receptor P2Y ₂ , G-protein coupled, 2 (P2RY2) gene associated with essential hypertension in Japanese men.	Wang Z, Soma M, 他	総合科 (内科)
J Hum Hypertens. 2010 May;24(5):351-8.	Haplotype-based case-control study of receptor (calcitonin) activity-modifying protein-1 gene in cerebral infarction.	Nakazato T, Soma M, 他	総合科 (内科)
Am J Hypertens. 2010 May;23(5):547-55.	Association study of the elastin microfibril interfacer 1 (EMILIN1) gene in essential hypertension.	Shimodaira M, Soma M, 他	総合科 (内科)
Expert Opin Pharmacother. 2010 Jul;11(10):1611-20.	Clinical effectiveness and safety evaluation of long-term pioglitazone treatment for erythropoietin responsiveness and insulin resistance in type 2 diabetic patients on hemodialysis.	Abe M, Soma M, 他	総合科 (内科)
Cardiovasc Diabetol. 2010 Aug 16;9:38.	Effect of candesartan monotherapy on lipid metabolism in patients with hypertension: a retrospective longitudinal survey using data from electronic medical records.	Nishida Y, Soma M, 他	総合科 (内科)
Expert Opin Investig Drugs. 2010 Sep;19(9):1027-37.	Comparison between the antiproteinuric effects of the calcium channel blockers benidipine and cilnidipine in combination with angiotensin receptor blockers in hypertensive patients with chronic kidney disease.	Abe M, Soma M, 他	総合科 (内科)

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hereditas. Oct;147(5):215-24.	2010 Association of the insulin-like growth factor1 gene with myocardial infarction in Japanese subjects.	Aoi N, Soma M, 他	総合科 (内科)
Eur J Endocrinol. Oct;163(4):671-80.	2010 Association of HSD3B1 and HSD3B2 gene polymorphisms with essential hypertension, aldosterone level, and left ventricular structure.	Shimodaira M, Soma M, 他	総合科 (内科)
Hereditas. Dec;147(6):313-9.	2010 The haplotype of the CACNA1B gene associated with cerebral infarction in a Japanese population.	Yamaguchi M, Soma M, 他	総合科 (内科)
J Hypertens. Jan;29(1):91-101.	2011 Treatment with valsartan stimulates endothelial progenitor cells and renal label-retaining cells in hypertensive rats.	Yoshida Y, Soma M, 他	総合科 (内科)
Intern 2011;50(18):2039-43.	Med. Disseminated gonococcal infection in Japan: a case report and literature review.	Suzaki A, Soma M, 他	総合科 (内科)
Int J Nephrol. 2011	Comparison of sustained hemodiafiltration with acetate-free dialysate and continuous venovenous hemodiafiltration for the treatment of critically ill patients with acute kidney injury.	Abe M, Soma M, 他	総合科 (内科)
Int J Artif Organs. Jan;34(1):16-25.	2011 Relationship between erythropoietin responsiveness, insulin resistance, and malnutrition-inflammation-atherosclerosis (MIA) syndrome in hemodialysis patients with diabetes.	Abe M, Soma M, 他	総合科 (内科)
Curr Drug Metab. Jan;12(1):57-69.	2011 Antidiabetic agents in patients with chronic kidney disease and end-stage renal disease on dialysis: metabolism and clinical practice.	Abe M, Soma M, 他	総合科 (内科)
Clin Nephrol. Jan;75(1):49-58.	2011 Relationship between insulin resistance and erythropoietin responsiveness in hemodialysis patients.	Abe M, Soma M, 他	総合科 (内科)
Hypertens Res. Feb;34(2):268-73.	2011 Benidipine reduces albuminuria and plasma aldosterone in mild-to-moderate stage chronic kidney disease with albuminuria.	Abe M, Soma M, 他	総合科 (内科)

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hypertens Res. 2011 Mar;34(3):348-53.	Protective effects of statin on cardiac fibrosis and apoptosis in adrenomedullin-knockout mice treated with angiotensin II and high salt loading.	Yamamoto C, Soma M, 他	総合科 (内科)
Artificial Organs 35:398-403, 2011	Characterization of insulin adsorption behavior of dialyzer membranes used in hemodialysis.	阿部冨紀, 相馬正義	総合科 (内科)
Kidney Int Suppl. 116 S17~S23, 2010	The Kidney Early Evaluation Program (KEEP) of Japan: results from the initial screening period.	Mitsuru YANAI	総合科 (内科)
日本透析医学会雑誌 26 (1) 49~54, 2011	もし透析の医師が感染症専門医を取得したら~透析医療における感染症マネジメントの重要性~	矢内 充	総合科 (内科)
Internal Medicine 49 (18) 2017~2020, 2010	Liver abscess of Actinomyces israelii in a hemodialysis patient: case report and review of the literature.	Mitsuru YANAI	総合科 (内科)
Rinsho Byori. 2011 Feb;59(2):128-33.	Identifying unrecognized airflow obstruction in cases with lifestyle-related diseases using a data mining system with electronic medical records.	Matsumoto K, Gon Y, 他	総合科 (内科)
Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 2011 Jan;300(1):L56-63.	The Rac1/JNK pathway is critical for EGFR-dependent barrier formation in human airway epithelial cells.	Terakado M, Gon Y, 他	総合科 (内科)
Exp Cell Res. 2010 Nov 15;316(19):3272-81.	Mast cell death induced by 24(S),25-epoxycholesterol.	Fukunaga M, Gon Y, 他	総合科 (内科)
Int Immunopharmacol. 2010 Sep;10(9):1062-7.	Apoptosis signal-regulating kinase 1-mediated signaling pathway regulates lipopolysaccharide-induced tissue factor expression in pulmonary microvasculature. Int Immunopharmacol.	Mizumura K, Gon Y, 他	総合科 (内科)
Platelets. 2010;21(8):628-31.	Long term changes in platelet counts after H. pylori eradication in non-ITP patients.	Matsukawa Y, Gon Y, 他	総合科 (内科)

- 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eradication Case Rep Gastroenterol 2010;4:41-45	Increases in Nonspecific Immunoglobulin E and Eosinophils after H. pylori	Matsukawa Y, Gon Y, 他	総合科 (内科)
今日の診断指針 第6版 132～133, 2010	睡眠障害 (不眠症・過眠症)	内山 真	精神神経科
神経治療学 27 161～168, 2010	Alzheimer 病の睡眠・覚醒障害と時間生物学的治療	内山 真	精神神経科
順天堂精神医学研究所紀要 17, 2010	精神疾患と睡眠障害	内山 真	精神神経科
睡眠医療 4 (増刊号) 14 169～176, 2010	ラメルテオンの臨床効果と安全性	内山 真, 金野倫子	精神神経科
実験治療 No.698 3～7, 2010	不眠の疫学と基礎知識	内山 真	精神神経科
精神科治療学 25 105～110, 2010	DSM-5 ドラフトにおける睡眠覚醒障害について	内山 真	精神神経科
睡眠医療 4 275～280, 2010	睡眠学の発展と国際交流	内山 真	精神神経科
眠気の科学 -そのメカニズムと対応- (井上雄一, 林光緒 編) 81～87, 2011	生体リズムと眠気	内山 真	精神神経科
うつ病ハンドブック -診療のコツ- (大野裕 編) 149～158, 2011	睡眠障害とうつ病	内山 真	精神神経科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること (当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Sleep33 1693~702, 2010	Association between depression and insomnia subtypes: a longitudinal study on the elderly in Japan.	Yokoyama E, Kaneita Y, Saito Y, Uchiyama M, Matsuzaki Y, Tamaki T, Munezawa T, Ohida T	精神神経科
LUTS2 119~122, 2010	Effects of α 1-Blockers for lower urinary tract symptoms and sleep disorders in patients with benign prostatic hyperplasia.	Sakuma T, Sato K, Nagase Y, Mochida J, Sugimoto S, Ichinose T, Yamaguchi K, Uchiyama M, Takahashi S	精神神経科
Respirology15 1122~6, 2010	Obstructive sleep apnoea is associated with risk factors comprising the metabolic syndrome.	Akahoshi T, Uematsu A, Akashiba T, Nagaoka K, Kiyofuji K, Kawahara S, Hattori T, Kaneita Y, Yoshizawa T, Takahashi N, Uchiyama M, Hashimoto S	精神神経科
Psychiatry Clin Neurosci64 426~34, 2010	Relationship between late-life depression and life stressors: large-scale cross-sectional study of a representative sample of the Japanese general population.	Kaji T, Mishima K, Kitamura S, Enomoto M, Nagase Y, Li L, Kaneita Y, Ohida T, Nishikawa T, Uchiyama M	精神神経科
Neurosci Res68 225~231, 2010	Diurnal fluctuations in subjective sleep time in humans.	Aritake-Okada S, Higuchi S, Suzuki H, Kuriyama K, Enomoto M, Soshi T, Kitamura S, Watanabe M, Hida A, Matsuura M, Uchiyama M, Mishima K	精神神経科
Sleep and Biological Rhythms9 35~45, 2011	Stress coping behaviors and sleep hygiene practices in a sample of Japanese adults with insomnia.	Abe Y, Mishima K, Kaneita Y, Ohida T, Nishimura T, Uchiyama M	精神神経科
日大医学雑誌 69 (4月号) 143, 2010	APOL1, 2, 4 遺伝子と統合失調症の相関	高橋 栄, Yu-hu Cui, Yong-hua Han, Jesen A. Fagerness, Brian Galloway, Yu-cun Shen, 小島卓也, 内山 真, Stephen V. Faraone, Ming T. Tsuang	精神神経科
日大医学雑誌 69 (12月号) 374, 2010	探索眼球運動による統合失調症の診断 - 自動解析装置を用いた多数例検討-	鈴木正泰, 高橋 栄, 松島英介, 角田雅彦, 倉知正佳, 岡田 俊, 林 拓二, 石井洋平, 森田喜一郎, 前田久雄, 片山征爾, 川原隆造, 大塚達以, 平安良雄, 関根瑞保, 大久保善朗, 木下真衣, 太田克也, 内山 真, 小島卓也	精神神経科
日本女性心身医学雑誌 15 228~236, 2010	日本在住一般成人抑うつ症状と身体愁訴	今野千聖, 鈴木正泰, 大寄公一, 降旗隆二, 高橋 栄, 兼板佳孝, 大井田隆, 内山 真	精神神経科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
精神科 17 206~210, 2010	症例 発作性の不安に伴い自傷行為を繰り返した褐色細胞腫の1例	今野千聖, 鈴木正泰, 高橋 栄, 内山 真	精神神経科
精神神経学雑誌 112, 899~905, 2010	精神疾患にみられる不眠と過眠への対応	内山 真, 鈴木正泰, 今野千聖, 降旗隆二, 大寄公一, 金野倫子, 高橋 栄	精神神経科
分子精神医学 10 146~148, 2010	探索眼球運動検査の臨床・研究への応用	鈴木正泰, 高橋 栄, 内山 真	精神神経科
J Affect Disord 130 75~82, 2010	Self-help behaviors for sleep and depression: A Japanese nationwide general population survey.	Furihata R, Uchiyama M, Takahashi S, Konno C, Suzuki M, Osaki K, Kaneita Y, Ohida T	精神神経科
Lancet 377 874, 2011	Case Report Hidden harm.	Suzuki M, Konno C, Takahashi S, Uchiyama M	精神神経科
International Angiology 28(supple. 1 to 2) 33-34, 2010	Genetic polymorphisms of prostacyclin synthase gene and cardiovascular disease.	中山 智祥	臨床検査医学科
Journal of Human Hypertension 24(5):327-335, 2010	The purinergic receptor P2Y ₂ , G-protein coupled, 2 (P2RY2) gene associated with essential hypertension in Japanese men.	中山 智祥	臨床検査医学科
Journal of Human Hypertension 24(5):351-358, 2010	Haplotype-based case-control study of receptor (calcitonin) activity modifying protein (RAMP) 1 gene in Cerebral Infarction.	中山 智祥	臨床検査医学科
American Journal of Hypertension 23(5):547-555, 2010	Association study of the elastin microfibril interfacer 1 (EMILIN1) gene in essential hypertension.	中山 智祥	臨床検査医学科
Cardiovascular Diabetology 9:38, 2010	Effect of candesartan monotherapy on lipid metabolism in patients with hypertension: a retrospective longitudinal survey using data from electronic medical records.	中山 智祥	臨床検査医学科
European Journal of Endocrinology 163(4):671-680	Association of HSD3B1 and HSD3B2 gene polymorphisms with essential hypertension, aldosterone level and left ventricular structure.	中山 智祥	臨床検査医学科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
Hereditas 147(5): 215-224, 2010	Association of the Insulin-like growth factor-1 gene with myocardial infarction in Japanese subjects.	中山 智祥	臨床検査医学科
Hypertension 56(5):973-980, 2010	Common variants in the ATP2B1 gene are associated with susceptibility to hypertension: The Japanese Millennium Genome Project.	中山 智祥	臨床検査医学科
Hereditas 147(6): 313-319, 2010	The haplotype of the CACNA1B gene associated with cerebral infarction in Japanese.	中山 智祥	臨床検査医学科
Mediators of Inflammation. 2010:535918, 2010	Inflammation, a link between obesity and cardiovascular disease.	中山 智祥	臨床検査医学科
Clinical Biochemistry 44(10-11): 789-794, 2011	Association study: SLC6A18 gene and myocardial infarction.	中山 智祥、松本 健	臨床検査医学科
日本臨床検査自動化学会雑誌 in press 2011	出現実績ゾーン法による変異ヘモグロビン検出法の検討。	中山 智祥、松本 健、里村 厚司	臨床検査医学科
Molecular Vision in press 2011	Analysis of candidate genes for age-related macular degeneration subtypes in the Japanese population.	中山 智祥	臨床検査医学科
Investigative Ophthalmology & Visual Science in press 2011	Associations of Complement Factor H and ARMS2 Genotypes with Subtypes of Polypoidal Choroidal Vasculopath.	中山 智祥	臨床検査医学科
日大医学雑誌。70(2): 121-124, 2011	Common disease の疾患感受性遺伝子検索法の変遷— 本態性高血圧症を中心として —	中山 智祥	臨床検査医学科
医療と検査機器・試薬。34(4): 547-553, 2011	生化学検査試薬メジャーLシリーズ「TC, TG, LDL, HDL, UA, UN, CRE」の基礎的検討。	中山 智祥	臨床検査医学科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Therapeutic apheresis and dialysis 14(3):373-376, 2010	Peritonitis associated with Pasteurella multocida: molecular evidence of zoonotic etiology.	里村 厚司、中山 智祥	臨床検査医学科
European journal of clinical investigation 40(10):865-873, 2010	Relationship between oligomer and functional serum mannose-binding lectin in chronic renal failure.	里村 厚司、中山 智祥	臨床検査医学科
Rinsho Byori. 2011 Feb;59(2):128-33.	Identifying unrecognized airflow obstruction in cases with lifestyle-related diseases using a data mining system with electronic medical records.	松本 健、中山 智祥	臨床検査医学科
臨床化学 39(2):162-165, 2010	セルロースアセテート膜電気泳動における高分子小腸型ALPアイソザイムの検討	中山 智祥、星野 忠	臨床検査医学科
International Medical Journal in press 2011	A patient in whom treatment for Coxiella burnetii infection ameliorated a depressive state and thoughts of impending death.	中山 智祥、荒島 康友	臨床検査医学科
Orthopedics	Evaluation of biomechanical features of vertebrae following vertebroplasty using hydroxyapatite blocks	Masashi Oshima	整形外科
脊椎脊髄ジャーナル	椎体形成術	網代 泰充	整形外科
OS NOW Instruction	骨粗鬆症椎体骨折に対する低侵襲 vertebroplasty	網代 泰充	整形外科
整形外科	骨粗鬆症椎体骨折に対するバイドロキシアパタイトブロックを用いた椎体形成術の検討	松木 健一	整形外科
Obstetrics and Gynecology Research. 201137(8):1076-83	glycoprotein I antibody on PIGF, VEGF and sVGFGR1 production from cultured	Yamamoto T, Chishima F, Nakamura A, Kuno	産婦人科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
京地方部会会誌, 第 60 巻, 第 1 号, pp157-159. 2011. 3	腹腔鏡下卵管形成術後の卵管妊娠の根治術後に体外受精胚移植にて妊娠分娩に至った 1 例	千島史尚, 加藤恵利奈, 友部淳子, 林忠佑	産婦人科
臨床免疫・アレルギー科	妊娠維持と子宮マクロファージによる T 細胞抑制	千島史尚, 山本樹生	産婦人科

計 162 件

- 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを 100 件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 澤 充
管理担当者氏名	庶務課長：榎並 修一 医事課長：小峰 勝 病歴課長：千葉 哲夫 医学部庶務課長：小林 好伸 医薬品安全管理責任者：吉田 善一 医療機器安全管理責任者：丹正 勝久

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		庶務課 病歴課	病院日誌については、日別、年度別に保管。病歴資料については、カルテ、エックス線写真とも個人別、科別、年度別にファイルし、保存している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	医学部庶務課 板橋病院庶務課	
	高度の医療の提供の実績	病歴課 当該診療科	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病歴課 当該診療科	
	高度の医療の研修の実績	当該診療科	
	閲覧実績	病歴課 庶務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課 庶務課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 庶務課	
第規一則号第一に掲げる十一の確項各の号及び第九の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室 庶務課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室 庶務課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室 庶務課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室 庶務課	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室 庶務課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染予防対策室 庶務課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室 庶務課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室 庶務課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染予防対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染予防対策室 庶務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染予防対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染予防対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部 庶務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学技士室 中央放射線部 庶務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学技士室 中央放射線部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学技士室 中央放射線部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学技士室 中央放射線部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務長 杉山 晴比古
閲覧担当者氏名	庶務課長：榎並 修一 会計課長：大野 修平 医事課長：小峰 勝 病歴課長：千葉 哲夫 資材課長：石川 誠 医学部庶務課長：小林 好伸
閲覧の求めに応じる場所	庶務課・会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	5 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 1 件
	地方公共団体	延 4 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	62.89%	算定期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		23,272人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		19,286人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		7,485人
	D：初診の患者の数		56,092人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2.3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☑・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>日本大学医学部附属板橋病院は患者の生命の尊厳と安全を確保し、常に高度で先進的な医療を提供する特定機能病院として、安全管理体制の強化を図るため、平成12年3月に医療事故防止マニュアルを作成し、以下の指針及び安全管理体制の確保のための委員会並びに医療事故発生時の対応方法をマニュアル化し整備した。</p> <p>① 医療法の改正に伴い安全管理に関する基本的な考え方等医療安全管理指針を改定（基本理念及び完全管理指針）（平成12年3月制定，平成22年4月改訂）</p> <p>② 安全管理体制組織運営</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療安全管理室運営規則（平成16年1月制定，平成17年11月改訂）・ リスクマネジャーに関する規則（平成16年1月制定）からセーフティマネジャーに関する規則と名称変更（平成18年9月改訂）また、諸規則に記載されている「リスクマネジャー」は「セーフティマネジャー」と読み替えて運用。・ 医療安全ワーキンググループ設置規約（平成18年4月制定，平成18年9月改訂） <p>③ 安全管理体制確保のための委員会</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療安全管理委員会規則（平成12年5月制定，平成18年9月改訂）・ 医療事故対策特別委員会規則（平成12年5月制定，平成17年11月改訂） <p>④ 医療事故発生時の対応方法</p> <ul style="list-style-type: none">・ インシデント・アクシデント・不具合事象（合併症）報告運用規則（平成12年5月制定，平成22年4月改訂）・ インシデント・アクシデントレポート不具合事象（合併症）報告フローチャート（平成12年5月制定，平成13年2月改定，平成13年4月改定，平成16年1月改定）・ 重大医療事故報告ルートフローチャート（平成12年8月制定，平成19年9月改訂） <p>⑤ 患者相談窓口運用要項（平成15年10月制定，平成16年1月改定）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 患者相談窓口フローチャート	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>「医療安全管理委員会」は医療安全管理室長を委員長として、専任医療安全管理者・診療部門・看護部門・中央部門（薬剤部，中央放射線部，臨床検査部）・事務部門から選出された委員（セーフティマネジャー）により構成されている。定例で月1回の会議を開催し、当院における医療に係る安全管理の基本を決定し、医療事故防止対策の検討及び医療安全の推進を図っている。また、年3回の医療安全講習会の企画・運営を行っている。下部組織として各部門の主任以上の者にセーフティマネジャーを任命し、各部署において医療安全対策を推進している。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>医療安全管理指針に基づき、安全管理体制と医療事故を未然に防ぐために以下の研修を実施した。</p> <p>① 平成22年6月7日（月），9日（水），10日（木），15日（火）</p> <ul style="list-style-type: none">※第1回医療安全講習会 「当院の基本理念」，「理解しにくい医療用語」他 <p>② 平成22年11月11日（木），12日（金），15日（月），12月19日（金）</p> <ul style="list-style-type: none">※第2回医療安全講習会 「5S 活動の進捗状況」「与薬に関するインシデントのアンケート調査から」他 <p>③ 平成23年3月9日（水），10日（木）</p> <ul style="list-style-type: none">※第3回医療安全講習会 「安全確認行動の重要性（手術室の場合）」「インスリン製剤の基礎知識」	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ インシデント・アクシデントレポートにより、速やかに報告を行う体制を整備している。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ①インシデント・アクシデントレポートによる速やかな報告の推進。平成18年度にはインシデントレポートシステムを導入しオンライン化を図った。 ②提出されたインシデントレポート、外部のレポート、現場からの問題提起、インターネットやメディアファックスなどから事例を収集・把握し、情報を得ている。また、上記情報を踏まえて、医療安全管理室は報告された内容を事例によっては当事者立会いによる現場での聞き取りや状況確認を行い、レベルの高い事件事例については平成18年度から設置した4部門の事例別ワーキンググループに付託し、詳細な原因究明分析を行い改善策の検討を行っている。 ③24時間いつでも提出可能にするために、医療安全管理室にポストを設置。 ④医療安全管理室室員の連携（情報交換）をとるために、週1回の連絡会を開催し、情報の共有化を図り、分析・予防対策等の検討を行っている。 ⑤専任医療安全管理者が病棟ラウンドを行い、報告内容の確認及びリスクマネージャーとの連携をとっている。 ⑥「ヒヤリ・ハット通信」「医療安全注意報」等の発行時には、回覧で読んだことを証明してもらうため、確認票も添付し、そこにサイン（押捺）させ、医療安全管理室で確認票を収集・管理している。 ⑦可及的速やかに検討が必要な事例が発生した場合、当該部署の医師や看護師ならびにそれに関連する部署の者も集めて「特別症例検討委員会」を開催し、今後再発防止策を検討・実施している。 	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> (1 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> (5 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (1) 名 兼任 (10) 名 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理室を設置し、医療安全管理委員会において検討された方針に基づき、組織横断的観点から安全管理対策を企画・立案・実施及び改善を図る。 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無										
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： ・ 基本理念，基本方針，専任者の配置，感染防止対策委員会の設置，職員の研修，感染症発生時の報告，感染症発生時の対策，閲覧について，連絡先，その他 											
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回										
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： ・ 院内の感染症情報の共有，感染対策講習会の準備（企画）と開催，感染対策マニュアルの改訂 医療安全ポケットマニュアル第6版の作成，標準予防策の手指衛生行動の評価：手洗いラウンド，事例検討会，新型インフルエンザ対策，ワクチン接種，安全器材のサンプル等について 											
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 9 回										
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： ・ 感染防止対策講習会 <table border="1" data-bbox="215 996 1353 1899"> <tr> <td data-bbox="215 996 550 1227"> 講習会 1 2010 年 5/26 (水)・6/22 (火) 17:30 </td> <td data-bbox="550 996 1353 1227"> 感染対策は、「清く、正しく、美しく」 ・ 感染対策指針，感染対策の基本 ・ 2009 年度当院の感染対策活動報告 ・ ICLN の活動報告・学会参加者の報告 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="215 1227 550 1451"> 講習会 2 7/22 (木)・8/23 (月) 17:30 </td> <td data-bbox="550 1227 1353 1451"> 抗菌薬、私ならこう使う ・ 多剤耐性菌対策 (MDRP)：ベッドサイドでの対策 ・ 防護具の適正使用 ・ 当院の抗菌薬使用状況・抗菌薬の適正使用について </td> </tr> <tr> <td data-bbox="215 1451 550 1619"> 講習会 3 9/13 (月) 17:00 10/22 (金) 17:30 </td> <td data-bbox="550 1451 1353 1619"> 感染症なんて怖くない ・ 職業感染対策（針刺し・切創件数と対応） ・ 結核対策について ・ 医療従事者とワクチン </td> </tr> <tr> <td data-bbox="215 1619 550 1787"> 講習会 4 11/24 (水)・12/14 (火) 17:30 </td> <td data-bbox="550 1619 1353 1787"> 今さら聞けない感染対策 ・ 感染性胃腸炎対策（ノロウイルス） ・ インフルエンザ対策 ・ 標準予防策の徹底：環境整備 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="215 1787 550 1899"> 講演会 5 2011 年 1/26 (水) 17:30 </td> <td data-bbox="550 1787 1353 1899"> 院外講師による講演会 「こう戦え！耐性菌」 東京医科大学微生物学講座主任教授 感染制御部部长松本哲哉先生 </td> </tr> </table>		講習会 1 2010 年 5/26 (水)・6/22 (火) 17:30	感染対策は、「清く、正しく、美しく」 ・ 感染対策指針，感染対策の基本 ・ 2009 年度当院の感染対策活動報告 ・ ICLN の活動報告・学会参加者の報告	講習会 2 7/22 (木)・8/23 (月) 17:30	抗菌薬、私ならこう使う ・ 多剤耐性菌対策 (MDRP)：ベッドサイドでの対策 ・ 防護具の適正使用 ・ 当院の抗菌薬使用状況・抗菌薬の適正使用について	講習会 3 9/13 (月) 17:00 10/22 (金) 17:30	感染症なんて怖くない ・ 職業感染対策（針刺し・切創件数と対応） ・ 結核対策について ・ 医療従事者とワクチン	講習会 4 11/24 (水)・12/14 (火) 17:30	今さら聞けない感染対策 ・ 感染性胃腸炎対策（ノロウイルス） ・ インフルエンザ対策 ・ 標準予防策の徹底：環境整備	講演会 5 2011 年 1/26 (水) 17:30	院外講師による講演会 「こう戦え！耐性菌」 東京医科大学微生物学講座主任教授 感染制御部部长松本哲哉先生
講習会 1 2010 年 5/26 (水)・6/22 (火) 17:30	感染対策は、「清く、正しく、美しく」 ・ 感染対策指針，感染対策の基本 ・ 2009 年度当院の感染対策活動報告 ・ ICLN の活動報告・学会参加者の報告										
講習会 2 7/22 (木)・8/23 (月) 17:30	抗菌薬、私ならこう使う ・ 多剤耐性菌対策 (MDRP)：ベッドサイドでの対策 ・ 防護具の適正使用 ・ 当院の抗菌薬使用状況・抗菌薬の適正使用について										
講習会 3 9/13 (月) 17:00 10/22 (金) 17:30	感染症なんて怖くない ・ 職業感染対策（針刺し・切創件数と対応） ・ 結核対策について ・ 医療従事者とワクチン										
講習会 4 11/24 (水)・12/14 (火) 17:30	今さら聞けない感染対策 ・ 感染性胃腸炎対策（ノロウイルス） ・ インフルエンザ対策 ・ 標準予防策の徹底：環境整備										
講演会 5 2011 年 1/26 (水) 17:30	院外講師による講演会 「こう戦え！耐性菌」 東京医科大学微生物学講座主任教授 感染制御部部长松本哲哉先生										

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ 感染症発生時、細菌検査室から主治医へ、と同時に隣室の感染予防対策室の専従の感染管理者への報告があり、現場へ直ちにラウンドし情報の共有・感染対策の強化について検討と確認を行っている。速やかな報告書の提出が可能となった。
 - ・ 標準予防策と経路別感染予防の遵守の状況をラウンドで検証している。
 - ・ 手指衛生月間（ポスター掲示）を設け、ICC手洗い評価ラウンドの実施。
 - ・ ICLN活動として、自部署のスタッフのチェッカー（ブラックライト）を用いて手指衛生評価の実施。
 - ・ NICUスタッフの手指衛生行動の評価；手指消毒剤の使用量の測定
 - ・ 病棟男女トイレの水栓を自動水栓へ切り替え
 - ・ CAUTIサーベイランス（神経内科，血液・膠原病内科，泌尿器科，脳神経外科の4部署），VAPサーベイランス実施（ICU・救命救急センターの2部署）
 - ・ 蓄尿者の数を制限し汚物処理室の環境整備に努めた。

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 与薬に関するインシデントのアンケート調査結果について・ インスリン製剤の基礎知識・ 薬剤の取り扱いについて	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 (☑・無)・ 業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 薬剤管理委員会の委員が月1回の割合で、病棟や外来の医薬品について手順書通りに行なわれているかチェックを行っている。・ 手順書の内容は委員会で検討修正し、医療安全管理委員会で承認され改訂版として運用している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☑・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">次の内容について各診療科、病棟、外来に対して情報提供を行なうとともに確認表の提出による周知を行なった。・ リン酸二カリウム液キット製剤の取り扱いについて・ 後発医薬品への切り替えについて・ リン酸補正液の切り替えについて	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器の有効性・安全性に関する事故・ 医療機器の使用法に関する事項・ 医療機器の保守点検に関する事項・ 医療機器の不具合が生じた場合の対応に関する事項・ 医療機器の使用に関して発生した場合の対応に関する事項・ 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項・ 新しい医療機器の導入時研修・ 医用電子加速装置の保守管理について、放射線治療のリスクマネージメント・ R A L S の非常時の処置方法	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 (☑・無)・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 保守点検の計画・実施表作成・ 定期点検 (各医療機器のマニュアルに沿った期間で行う)・ 日常点検 (始業点検, 使用後, 修理, 使用中等) の実施及び記録・ 医療ライナック：定期点検, 年4回 メーカーに依頼・ R A L S : 定期点検, 年4回 メーカーに依頼・ 定期点検は, 各機器のマニュアルに沿った期間で行い, 人工呼吸器, 輸液ポンプ, シリンポンプ等, 一部の機器は臨床工学技士が行い, その他の機器はメーカーに依頼する。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☑・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ メーカーからの安全使用に関する情報通知内容を関係職員に回覧し, 情報の共有化を図っている。また, 安全情報をファイルし, 適宜閲覧可能とする。・ メーカーからの改修・事項に則り適宜改修を行っている。・ 治療計画装置の安全使用を図るために, 保守契約項目にソフトのバージョンアップを含め常に最新のソフトを使用している。・ 病棟巡視を行い, 病棟で使用中の機器の確認・目視点検・動作確認を行っている。特に人工呼吸器に関しては, 使用の際に臨床工学技士による装着時点検を行なっている。・ 医療安全管理室と連携を取り医療機器安全情報として随時, 機器の取り扱いの注意点等をポスター及びチラシ等を発行し, 各病棟に配布している。・ 看護師の希望対象者に対して, 医療機器の取り扱い等の研修を毎月行なっている。(一回2名約3時) また, 全看護師対象に, 人工呼吸器, DC等のワンポイント講習を随時開催し, 機器の安全使用に必要な知識を伝達している。	